

国際資源対策推進事業「国際資源調査事業」

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 水産総合研究センター 公開日: 2024-07-17 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://fra.repo.nii.ac.jp/records/2010158

This work is licensed under a Creative Commons Attribution 4.0 International License.



国際資源対策推進事業「国際資源調査事業」

遠洋水産研究所 業務推進部

参画研究機関：北海道区水産研究所，東北区水産研究所，中央水産研究所

日本海区水産研究所，西海区水産研究所，水産工学研究所

さけますセンター，開発調査センター，水産総合研究センター本部，再委託機関

研究の背景・目的

1. 水産資源からの持続的生産を確保するためには資源状況に即した迅速な管理措置を講じていく必要があり，その前提として資源の現状を的確に把握することが肝要です。
2. 当センターでは国際資源として扱う約70種・系群（かつお・まぐろ類，鯨類，外洋イカ，南水洋生息種，公海底魚，日ロ・日中・日韓関連種）の資源調査を実施しており，調査結果は各種国際委員会・条約の場で管理措置検討の科学的根拠として活用されています。これらの調査は，今後もより一層の精度向上と継続性が要求されています。また，漁業の主対象種以外の混獲を回避する技術の開発を実施しており，現場への普及が求められています。

研究成果

1. まぐろ・かつお類については，標識放流調査，漁獲物調査，調査船調査，年齢査定等の生物調査，海洋データの収集解析，モデルによる太平洋クロマグロ等の資源量推定等を実施しました。特に，耳石を用いた年齢査定ではクロマグロの寿命が20年以上であることを明らかにしました。
2. 国際漁業管理機関が主催する会議に出席して資源管理に必要な的確な科学的助言と関係者への情報提供等を行いました。
3. 鯨類の資源管理においては，小型鯨類の漁獲物調査，行動解析調査，胃内容物調査，食害対策，遺伝解析，各種の目視調査，餌環境調査，生態系モデルの構築等を実施しました。
4. さけ・ます類等の資源については，調査船調査，系群識別調査等を実施しました。
5. 中国・韓国関係水域を含む東シナ海及び日本海における浮魚類及び底魚類の資源状態を把握する

生態調査，資源量調査を実施しました。

6. アカイカ調査船調査や南極オキアミ・外洋底魚の国際会議に対応しました。

波及効果

1. 国際漁業管理機関・条約や二国間交渉で対象となる資源について調査研究を実施し水産行政に寄与しました。
2. 必要な事業を無事に実施し，報告書などのアウトプットも多く出しました。このように国際資源の適切な管理に着実に貢献しており，委託元からも高い評価を得ています。

